

共通テーマ

「まだいける、大月」

on と off

島田 諒馬



テーマ

# on と off

都心から地方へ来る人が求めているものと仕事の合間や仕事が終わった人達が共通で求めるものの1つとして日々の忙しい毎日を忘れ一息ついてゆっくりだらだらして気持ちがoffの状態にしたいと考えその人たちが同じ空間でくつろげる場所を提供し、オフィスの需要を高めるだけでなく老若男女が集まる新たなコミュニティの場所を提供する。

1階のオフィスで仕事。 ————— 2階でぶどうになる。

1階で仕事をして2階でオフィスを使用してる人もそうでない人もみんなでぶどうになって川の水の流れの音を聞いたり山々の景色を見て気難しいことを忘れてだらだらと過ごせる。

内装イメージ



## ぶどうになる

日々の生活の中で仕事や学校などでの疲労が溜まっていたり何か頭を悩ます個人の問題があったりすると面倒になり「鳥になりたい」とか何かになりたいと例えるのを聞いたことがあると思います。

ここではそれが「ぶどうになりたい」に変わりただぶら下がっているだけで何にも考えてないぶどうになり、1度心を落ち着かせリラックスして気持ちを切り替えてから来週からの仕事を頑張ったり個人の悩みを解決するためくつろぎながら気楽に考えられることです。

ぶどうの実量は量の調整をしなければ本来200粒以上の実がなります。この施設を通して山梨県とのつながり、地域とのつながり、企業とのつながり、さまざまな年齢層とのつながり、オフィスを利用する人とのつながり、県外の人とのつながりがぶどうの実のように人や物や地域がたくさんつながる場所になると考えています。

### そしてなぜ大月市で行うのか

大月市の現在の課題の解決策の共通点として「大月をPRすること」が共通しており、大月を知らない人にPRする時「〇〇が特産品です」などいきなり知らない土地の長所をPRするより多くの人知っているぶどうを使い、まずは少しでも興味をもってもらうことが重要と考え「ぶどうになる」というキャッチーな言葉を使って多くの人々がまずは興味を持ち大月を知ってもらう第1歩となる施設を目指してそこから都心からのアクセスの良さを活かし「気軽に来れてとても落ち着ける場所」というイメージからワーケーションができるなど大月の課題をクリアできる施設になると考えています。

## ・ 県産木材を活用し、地域とのつながり

『FSC 認証材とその製品を使用』

「山梨の木を使おう」という活動を山梨県森林環境部が行っていて50社以上の企業が木材の生産、製品を作っている。県有林ではカラマツ、ヒノキ、スギ、アカマツなどの様々な木材を育てており、大月市内の企業「東林業」「卯月林業」などと連携し地域の企業の活性化に繋がる。

## ・ オフィスとのつながり

仕事が終わって「OFFの状態になれる」は「居心地の良さ」が重要と考え、木材のぬくもり・音を適度に吸収する・紫外線を吸収する・断熱性・湿度を調整してくれるなど「居心地の良さ」に繋がるものが多くオフィスを利用する人を増やせると考えました。

## ・ 想定する利用層

テーブルとイスがあると学生が勉強したりできるし、駅の近くにテイクアウトできるお店が多く（はまのや 月カフェ）そこで買って食べたりできると考え、ご当地の駅そばやほうとうのPRにもつながり家族連れやご年配の方も利用でき、どこか観光に行った帰りの人もふらっと寄れる地域の人と県外の人が入りやすいコミュニケーションの場になると考えました。



①



①

②

③



ぶどうになる部屋

ぶどうのハンモックだけがたくさんあるだけでゆっ  
くりだらだらと過ごすだけの空間。

自由に使えるスペース

県外の人との交わりや様々な年齢層が交わる空間を  
意識して使う人の用途に合わせて自由に使える空間。

サテライトオフィスを利用している人・学校帰りの学生・近所の農家の人・家族連れなど  
様々な年齢層で使用目的が違う人たち同士のコミュニケーションのきっかけになるように  
の場所を1つの部屋だけとして使うだけでなく反対の部屋や自由に使える  
スペースにも足を踏み入れるような工夫をしました。



### テーブル・イスの配置

利用する人たちの交流のきっかけになるように  
 ■の部屋と ■の部屋のテーブル・イスの数を調整  
 して用途に合わせて部屋を移動してもらいやすく  
 しました。

### トイレの位置

あえて中央の部屋だけに配置し人の流れができるだけ  
 色々な部屋に流れるようにしました。  
 またバリアフリーのトイレも配置し  
 利用する全ての人を使いやすい様にしました。

### ベランダの活用

隣の部屋にいける通路として活用して  
 人の流れを1つだけにせず様々な部屋に  
 行きやすくし使う人の用途にあわせて  
 移動できるようにしました。

ハンモックを使用してない人はどの様にもどろになってだらだらと過ごすのか？

ハンモックを使って何も考えずダラダラと過ごしたあとに気持ちが切り替えられる様それぞれで部屋を分け、ぶどう園の緑に囲まれながら山梨県産のスギ板の木目の美しさや木材の温もりを肌で感じながらより食事が楽しく感じたり、落ち着いた空間で気楽にもしくは集中して勉強や課題に取り組んだりなどを深く考え過ぎないでリラックスしながら気持ちと用途の on と off が行いしやすく同じぶどうになった人たちとのコミュニケーションが生まれる空間です。



「OFFの状態になれる」は「居心地の良さ」が重要と考え県産木材木材を使用し、壁の柱は香りがリラックス効果やフレッシュ効果があり猿橋にも使われているヒノキを採用。床材は美しい木目が特徴のスギを採用する。

果実園などによくある屋外用のベンチを連想し、よりぶどう園感を感じさせるために壁は白で統一して、ぶどう園のぶどうになった気分になれるようにパーゴラを設置しました。

天井に吊るすタイプの卵型ハンモックを採用して天井に吊るすことでより風に揺れたりするぶどうの気持ちになれる様にしました。また、ハンモックの高さを変えて実際に実っているぶどうみたいに個体差があるように利用する人がよりぶどうを感じれる工夫をしました。

